

平成21年度日本語教師合同研修会レポート

日加学園	トロント国語教室	日修学院
学校概要		
<ul style="list-style-type: none"> • 1978年創立 (32年) • 週 1 回 3 時間 • 開校: 9 月～ 6 月 • 全体で17～18クラス、1 クラスは 15人まで。(生徒数175名、教師数17名) • 現在 4～8 歳クラスは 2 クラスずつ。 • 幼児クラスはアシスタントあり。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1976年創立 (34年) • 児童は4～12歳まで。全部で 8 クラス。 • 週 3 時間、2 週に一度音楽クラスがある。 • 2 年生から 8 年生までで、教科書 (光村図書) の 4 年生下までを教える。 • アドバンスクラスあり。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1986年創立 (24年) • 全体で12クラス、幼児から14歳まで (10年制)。 • 週 6 時間 (朝 4 時間、昼 2 時間)、昼休み時間 1 時間、1 時間限は45分。幼児～1 年生は午前のみ。午前は国語+社会、午後は書道、音楽、歴史、童話 (幼児から 2 年生まで)。
見学クラスの様子		
<p>4 歳クラス: 5 歳クラスとほぼ同様、名札を付けている。子供達はしずかで、アシスタントが 1 名ついていた。</p> <p>5 歳クラス: 机にそれぞれ座って作業 (すでに小学校 1 年生のような感じ)。先生はです、まずで発話。ひらがなはすでに読めていて、漢数字の導入もカレンダーで行っている。</p> <p>6 歳クラス: 1 年生の漢字は既に読める。カタカナの復習も。</p> <p>13歳クラス: 国語教科書 4 年生使用。作文の書き方指導。</p> <p>15歳クラス: 国語教科書 5 年生下使用。</p>	<p>4 歳: です、まずで先生はクラス内で話している。</p> <p>1 年生: カタカナの書き順カードで覚える。</p> <p>6 年生: 国語教科書 3 年生使用。</p> <p>アドバンスクラス: 何歳まででもOK。このクラスではよい結果が出ている。継続率もよく、卒業してもアシスタントとして戻ってくる児童が多い。</p> <p>音楽クラス: 日本の歌を歌う。30分ごとに別のクラスと交代。歌を通じての文化紹介や歌詞のディクテーションもあり。</p>	<p>1 年生: 先生の周りに集まって授業。日付はひらがなと漢字数字で書かれている。1 年生では、既に国語教科書の漢字仮名まじり文の音読ができています。</p> <p>書道クラス: 書道の先生が教える。書道道具は各自持参 (3 年生から書道の時間がある)。</p> <p>音楽クラス: 日本の歌、2 年生で既に 4 曲上手に歌える。</p> <p>※発表会前で、見学不可のクラスが多数でした。</p>

学校の特色、その他

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • クラス内は非常に静か。 • 保護者のボランティア活動で、今回はみたらし団子を作り、売り上げは学校に寄付。(常時千ドル単位の売り上げ) • 運動会がある。 • クリスマスのときに発表会をする。 • 保護者主催による餅つき。 • 話し方発表会がある。 • 文集は1年に1回作成。 • 借りている学校(小学校)の校舎の条件は日本語センターとほぼ変わらない。 • コピー機は小学校の物を使用。 • 図書は倉庫に保管、保護者による管理で(受付、貸出、返却係いて、公けの図書館のように管理)児童書、マンガ、小説、大人用図書、ビデオ、DVDなど、かなりたくさん保護者の寄付で集まっている。幼児～低学年クラスの生徒は授業中に本を借りにくる。 • 学校で合同で外出(遠足)もある。 • 学園だよりがある。 • その日の担当者や係は腕章を付けている。休み時間になるとベルを持って廊下を通過して知らせる。 • 以前児童数が激減して存続の危機に陥ったが、支援してくれる保護者が多数いてくれたおかげで持ち直した。(ゴルフコンペ等で資金を募った。) • 小学1年生以上のクラスで月1回、以下の特別科目がある。音楽、絵画、空手、習字、将棋、剣道、凧製作、美術、コンピュータ | <ul style="list-style-type: none"> • 日本の同じ緯度にある北海道の学校(雨竜小)と姉妹校の関係で、毎年児童の交流がある。 • ボランティアで、2～3歳児のプチクラスがある。 • ベネッセの教材を利用している。 • 日加学園と同じで、休み時間は保護者がベルを鳴らす。 • 図書の貸出があり、寄付蔵書、ビデオ、DVDは日加学園よりも少ないが、充実している。保護者が図書館のように図書管理。 • 教師同士のミーティングをしっかりとやっている。 • 教科書を使った授業計画書を1ヶ月に1回、代表の先生に提出。 • 行事が多い(修学旅行、卒業パーティ、クラス写真会など) • アルバムは冊子で作成。まとめるのは大変だけど、生涯の宝として残る。 | <ul style="list-style-type: none"> • 2年生までは先生がクラスを移動して教えに行く。3年生からは生徒が移動する。 • 休み時間は同じくベルで知らせている。 • ボランティアでワーホリや卒業生が手伝いに来てくれる。 • 発表会で児童は2～3つ出演する(科目ごとの発表)。 • 対話クラスは中等部から。 • 社会は1年生から。 • 教科書は学年ごとに、1年生は1年生の国語教科書を使用。 • 貸出図書の寄付蔵書数は非常に多い。 • 中等部は1～6年生の教科書復習を兼ねた授業。 • 日加学園と同じで、休み時間は保護者がベルを鳴らす。 • 校歌がある。 |
|---|---|--|

ジョージタウン大学の森美子先生による講演
「継続語としての日本語習得支援」

継承語としての日本語を、第一言語、第二言語、外国語と比較研究され、特色やデータ結果を元に、今後どのような継承語教育を行えば良いかという指針を示していただきました。
この講演は非常に教師として有益な情報がたくさんあり、情報共有することで、家庭内教育や継承語教育に対する取り組みを見直して実施ことができると思います。
※内容は、いただいた資料を別紙で提出いたします。

所感

三校とも校舎を借用して運営されているので用具、備品の置き場の確保や掲示物へのダメージ対処に苦労しているようです。指導暦15年20年というベテラン教師が多く在籍しているのに関心いたしました。

保護者の献身的な動きが随処に見られ、ボランティアの力なくして学校は成り立っては行かないという印象を受けました。自分の子供同様、ほかの子供にも注意をしたり、指導する昔の日本の近所付き合いや助け合う、お互い様精神がうかがえます。子供を単に学校に通わせるだけでなく、どうすればもっとよくなるか、といったようなことを一緒に考えている姿勢が、一体感として感じられました。

わたくし達は様々の事情により、見聞を広げるに限界があると承知しています。知っているのと知らないのとでは大きな違いがあり、知ってるつもりになって、一人で試行錯誤するのではなく、情報を共有し、センターが互いに成長できるような場であれば良いです。教師それぞれの意識改革も重要な課題の一つだと思われれます。

出来ます事なら毎年、保護者代表も教師研修会に参加して頂き、立場のことなる方の目で継承語教育を見直して行ければ、運営、教育両面から非常に得る物が多いです。教師研修は何も他州に行かなくとも、センター内の他クラス見学、補習校見学（許可ができればですが）などでもお互いに研磨できる。新人の教師とは限らず、新しい発見はどの場面でもあります。凝り固まってしまった頭をほぐして、皆そろって積極的に良い物を取り入れる柔軟性を持っていけばよいと思います。

木下直子 伊藤成 会田陽三



保護者によるみたらし団子作り

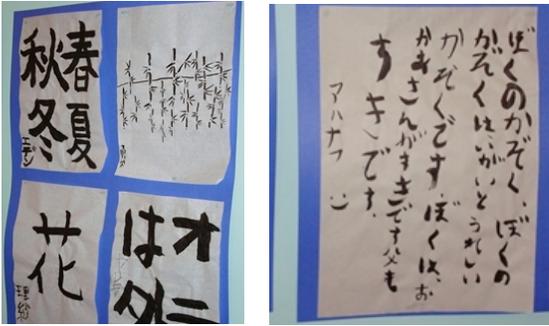


図書スペース





図書スペース

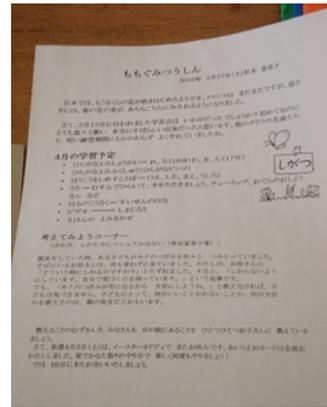
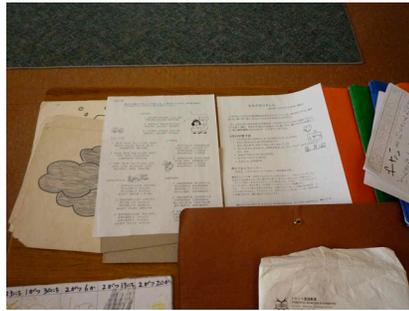
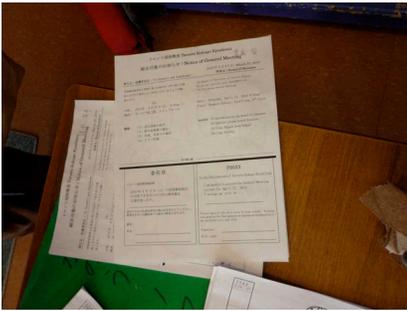


習字作品 (廊下に展示)



1年生クラス





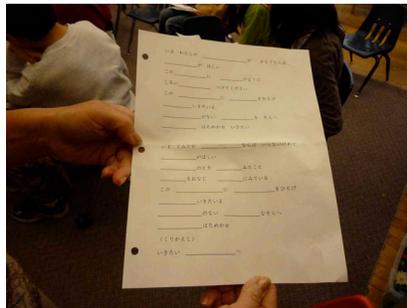
ワークシート類



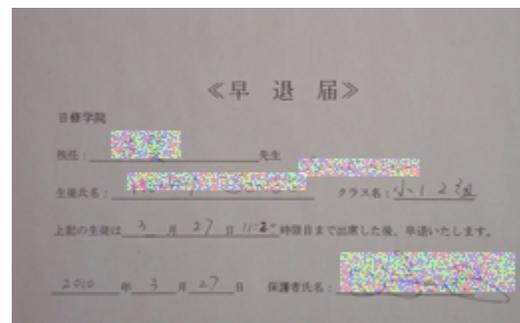
プレプチクラス



アドバンスクラス

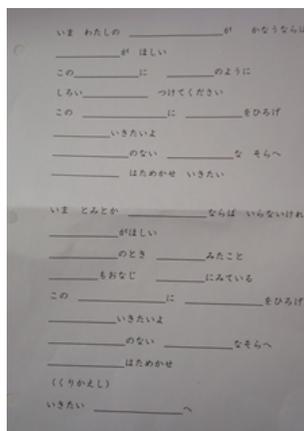


音楽クラス



習字クラス

高学年クラスワークシート



音楽クラス

歌詞ディクテーション

図書スペース



ロビー



売店 (飲食系)



売店



入口



ホール (今回は狂言舞台と生け花展示)



道場



武道クラブ活動掲示板



会議室外観と多目的通路 (2F)



過去に掲載されたイベントのポスター

